

## 生涯学習概論レポート 5 回答

課題：女性差別あるいは男性差別の体験や経験（した方でも、された方でも）、見た経験を教えてください

\*レポート 3 は高木大念学芸員への感想文、4 は期末レポートの草稿。どちらも評価対象外

1. 提出者 35 名。最終提出者の提出時間 7-12, 0:00
2. 文章 原文のまま。ただし空白行は削除しました。
3. タイトル 内容を簡潔に示すタイトルが多く見られました。一安心です。
4. 内容

記述内容を分けると女子男子ともに、仕事、学校学級、家族親戚と地域の 3 つに収まりました。20 歳前後の若者の経験の場としては、日本ではこの 3 つとなるのでしょうか。男女差が現れたのは「家族親戚と地域」です。仕事や学校での差別や不満は理由は異なるものの男女ともに見られました。それに対して「家族親戚と地域」での不愉快な経験、不本意な母親の姿の指摘は女子に多く見られました。男女同権は職場や学校といった公的な場では改善傾向である一方、家庭や地域という私的な部分では遅れていることを現していると考えます。別の言葉で言えば、「稼ぎ」では対等になってきたが、「務め」は旧来の慣習が未だはびこっている。平等の実現で一番の難関は「家族」といえるでしょう。

ネット公開してもよいですか？ 問題ある人は授業後個別に教えてください。

女子 16 名

〔仕事〕

バイト先で経験した男女差別

今までに経験した男女差別として、3 年前まで働いていたアルバイトの勤務先での男女差別がとても印象に残っている。私は高校生の時、とある飲食店でアルバイトをしていた。その勤務先では店主が男女差別をしていたということもあり、男女差別の発生する強い傾向があった。その店主は荷物を運ばせるといった力仕事やシフトが集まらなかった日や少ない日にシフトを入らせるといったことは男性店員にやらせていた。女性店員には厨房内で料理の盛り付けだけの仕事や注文の少ない席のバッシング（片付け作業）など比較的簡単だといわれる仕事だけをやらせていた。また、女性店員に限ってはシフトの融通が利いていた。力仕事などの男性店員が普段する仕事を女性店員がしているのを店主が発見した場合、その日勤務先にいた男性店員はもちろんのこと、その仕事をしていた女性店員にさえも叱り付けていた。女性店員が叱られた理由が私には分からず、この出来事が衝撃的で今でも印象に残っている。

課題の確認よろしくをお願いします。

船山

ホタテバイトでの賃金の不平等

ホタテバイトでは、女子と男子では賃金が違います。また男子の作業は男子しかやらせてもらえません。男子の作業の方が重労働であるため賃金に差が生まれていると考えます。しかし、一部の女子でも同じ作業が行うことができるかもしれません。また、作業内容が男女で同じ場合に、同じ賃金が給与されていないところでは女子差別があったと感じました。

バイトでの給料

農大生のほとんどが経験したことのあるホタテバイトでも男女差別がされていると思う。作業は、沖と丘に

分かれて別々に行なっている。基本的に沖に出るのは男だけで、丘には数人の男子と女子で作業する。沖での作業は力仕事で危険が伴うため、女が行けなくて給料が高いのは当たり前だと思う。しかし、丘で働く人はほとんど同じ作業を同じ時間行なっているのに、男と女では給料に大分開きが出ている。私が出ている番屋がそうだったので一概にホタテバイト全般とはいえないが、身近な場所でも些細な男女差別がまだ行なわれていることに驚いた。

#### 雇用の際の女性差別

大きな女性に対する差別は経験したことがないが、網走に来てホタテのアルバイトや農家のアルバイトをするときに、定員以上になってしまった場合は力仕事や、仕事のできる速さの点から、女性は最初に弾かれてしまうという経験をしたことがある。また、私が姉の友達に聞いた話では、面接の時に今パートナーがいるのか、結婚する予定があるか、子供を産む予定があるのかを聞かれたと言っていた。結婚を考えているが子供のことはまだ考えていないと言ったら、微妙な顔をされた。ここにも雇用での男女差別があるのだと感じた。

#### 男性の育児休暇について

女性が育児休暇を取る事より、男性が育児休暇を取ると嫌な顔をされるとテレビで見た。奥さんが出産疲れなどで育児どころではなくても、男は仕事をするもんだという昔の風習のせいで、育児休暇を取ることを阻まれているのが現実の社会だ。実際自分の父親も育児休暇を取ろうとした時、同僚や上司から悪口を言われたらしい。男は仕事、女は家事（育児）という古臭い考えのせいで多くの男性が育児休暇を取れず、その影響は女性にも行き、子供の成長にも影響する。早急に解決すべき問題だと思う。

#### 〔学校学級〕

##### 高校野球は男子だけ

私は小学校の少年野球チームに入り、男子と混ざって野球をしていました。中学生になって野球部に入り、男子と一緒に活動していました。しかし高校では野球部への加入はマネージャーとしてのみ許されていたため、野球部ではなくソフトボール部に入りました。小中学校では一緒にプレーできていたのに高校生になるとそれができなくなる。これは差別だと考えます。ですが、この差別は仕方のないことだと考えます。高校性になると、男女での筋肉量の差が大きく開かれることで能力の差が広がり、接触プレーでは怪我の危険もあるからです。そのため、男女平等を掲げている一方で必要な差別もあるのではないかと考えました。

#### 女子バスケ部と男子バスケ部の体育館を使用できる割合

高校時女子バスケ部に所属していた。男子バスケ部もあったため体育館の使用を分けていた。女子は平日午後17:30から20:00まで使用できた。しかし、男子は平日朝6:00から8:00までだけで午後は廊下などでトレーニングをしていた。男子の方が明らかに体育館を使用するのが不利だと思っていた。

なぜなら、平日は朝の時間しか体育館を使用することができないからである。女子バスケ部の監督は校長先生であったこともあり男子側から誰も口出し出来なかった。同じバスケ部でも女子の方が優位にされていた。

女子と男子を比べるとどちらかと言えば女子の方が良い成績を収めていたから優遇されていたのかも知れない。しかし、今考えると女子バスケ部が使わない時間だけしか体育館を使用することができていなかったのだと思った。

#### 差があったプールでの着替え場所

中学生の時の水泳の授業があるときの着替えの際、女子には更衣室があったが男子には更衣室が無く渡り廊下で着替えをしていた。性別関係なく更衣室を用意するべきだし、こうした所までから男女差別が生まれてしまうのではないかと感じた。

男女で授業内容が異なっていた

性差別の経験かどうか微妙なところですが、学生のとくに男女で体育の授業の内容が違ったことです。もともと男女で分かれて授業があり、同じ内容と授業回数で期間を変えて並行して行う形でしたが、三学期だけ女子はダンス、男子は確かソフトボールでした。私個人はダンスが得意なので何ら不平不満はなかったのですが、もちろんなかには男子にもダンスがしたい人、女子にもソフトボールがやりたかった人はいると思います。時間数が足りなく実施できなかったわけではなく初回の方でもともとと言われてたと思います。

〔家族親戚と地域〕

父と母は対等ではない。

私の父も母もお酒を飲む。しかし、祖父母の家に行ったときに母がお酒を飲んだ姿を見たことはない。祖父母の誕生日の時も母はお酒を飲まず台所でお皿を洗っていた。私は小学生の時に、どうして父は祖母や祖父の前では一度も手伝わず母は一度もお酒を飲まないのか。と祖母や祖父、父と母がいる時に尋ねたことがある。母は、妻の仕事だから。祖父母は、それが女性や妻の役目だから。とそれぞれ答えた。父は祖父母の言ったことに合図値を打つだけだった。母は楽しそうではなかった。それぞれの回答を聞いた私は何とも思わなかった。疑問すらわかなかった。

私は家族は平等だと思っていた。それは両親が私と姉妹が対等であるように何よりも大切にしてきたことだったからだ。いまでは当たり前だと当たり前だと母に役目を強要する祖父母や何も言わなかった父を憎く感じることもある。受け入れざるを得なかったとしても私や姉妹にそれが女性の仕事だと教えた母と何とも思わなかった当時の自分にも怒りがわく。私は父がお皿を洗って母がをお酒を飲んでもいいと思っているし、父と母がどんな時でも対等であればお互いにもっと楽しく暮らせるはずだと考えている。私の考えを両親に伝えても誤魔化されるか口論になり考えは伝わらない。私の望みは母も父も今まで以上に幸せになってくれることであり、そのためには平等であることが必要だと考えている。

お酌について

親戚の葬儀に参列しお斎を行った際に、当時小学校低学年だった私はお酌をした経験がある。その頃の私は意味が理解できず親戚に言われるままだったが、お斎のお酌について調べてみると遺族がお酌を行うのが常識なようだった。この事について知り私はお酌なんて制度はなくても困らないし、何のために存在するのか分からなかったと同時にお酌という制度に酷い不快感を覚えた。

身内の間に起きる女性差別

私が中学生の頃、親戚が集まった際に私が風呂上がりにリビングを通ると酔った親戚に「おっ色っぽくなったねー」と言われ、その時は愛想笑いをしてすぐに自分の部屋に戻った。親戚はおそらく大きくなったねという意味も込めて悪気は無く言ったように感じられたが、私は少なからず不快な気分になった。この頃は深く考えはしなかったが、今思えば女性差別の一つだったのではないかと感じる。

家事をするのは女性の役目ではない。

地元へ帰った際に母方の祖父母の家で食事をした。そこで料理の手伝いをしていた時、祖父から「女の子は家事ができる方がいいからね」と言われた。現在は結婚しても男女両方が家事をすることが一般的なの

で、「女の子」を主語にしてそう言うのは違うと感じた。

#### 地元に残る古い考え

私の地元では、「男は仕事、女は育児と男の世話」という、古い考えが残っており、大学進学率の男女差はまだまだ大きい。私の母も女性差別により、まともに勉強することが出来なかった。

母は地元でも有名な進学校に通っていたが、進路について悩んでいた際、「なぜ女性なのに大学に行く必要があるのか」と祖父から言われ、短期大学にしか通うことが出来なかったそうだ。私の友達も就職や専門学校に通う人が多いことから、もしかしたら今も古い考えが残っているのかもしれない。

若者の進学率低いままだと、将来有力な人材も育たず、発展することもないから、魅力がない街になってしまう。そうすれば、移住してくる人もいないため、人口がどんどん減り、過疎化が進むことだろう。早くこの古い考えが無くなり、男女平等な社会になってくれればいいと思う。

#### 身近な所に潜む押し付け

児童のころ公園で男子に交じって泥だらけになって遊んでいたが、地域の催し会で男子児童でなくてもできるようなお手伝いをしたりすると、近所の老人や周りにいた大人から女の子なんだからもう少しおとなしくしろ、男の子のような言葉遣いをするんじゃない、それは男子の仕事だからやらなくていいなど怒られることが多々あった。当時は怒られるのが嫌だったので言われたらやめていたが今思えば女の子はこうであるべき、女の子は重いものをもってはならないなど男の子と身体差の無い段階でも女の子はこうあるべき、男の子はこうあるべきという差別を押し付けられていた。

#### 沖縄および九州における根強い男尊女卑について

九州沖縄地方には根強い男尊女卑があるという話をよく聞く。今回の参院選でも「旦那と一緒にないと投票に行けない」という旨のツイートが回ってきた。そして私の母方の親戚には沖縄の人が多い。数年前の話になるが沖縄の親戚の家に泊まった際、家事をしているのは女性のみだった。男性は酒を飲んだり三線を弾いていたりするだけで食事の準備も後片付けも女性一同でやっていた。

先日曾祖母が亡くなったので母と弟が沖縄へ行き、その際弟の名前が地元の新聞に載った。曾孫代表として長男の名前が載ったのだ。九州では男児、その中でも特に長男を優先する傾向がある。男女差別の有無や態度は地域によって大きく変わるのだと思った。

#### 男子18名+1名

##### 〔仕事〕

男のほうがつらいのに支払われる同じ給料

最近私が行ったバイト先で明らかに男性差別を感じる事があった。それは仕事内容、仕事時間が異なっており男性のほうが長い場合や過酷なことがあったのに支払われる給料が同じであったことだ。女性は力を使わず体を酷使するこちらから見ると明らかに楽な作業をしているように見えた。常に体力が必要な仕事は男性に回されがちであると思う。確かに人は男のほうが力が強く体力もある生物であるが同じ給料でつらさが違う仕事をさせられるのには不満がたまる。適材適所といえはその通りだが、同じ金額なので仕事内容を交換してもよいのではないかと考える。逆に女性側にも今回とは違う例で同じようなことがあるかもしれない。差別をなくすことはやはり困難であると再認識した。

#### キャリアは似ていても男女の賃金の差は埋まらない

私の両親は、どちらも工業高校出身で高校卒業後すぐに会社に就職しており、高校時代の成績もあまり差

はなく、父が勤めている会社と母が務めている会社を比較しても、経営規模や福利厚生に大きな違いは少ないが現在の年収に1.5倍以上の差がでてしまっている。日本が抱える男女の賃金差問題は根強く簡単に解決できる問題ではないということがわかった。男女の働き方に関しての考えを改める必要があると感じた。男女の賃金差は、ホタテバイトでも起こっている。男女変わらない作業のはずが、日給で2000円以上もらえる額が違う。親方やおかみさんに聞いてみたところ、男性の方が力作業をするからその分給料も多いそうだが、網走のホタテバイトでは力仕事を女性がやっているところをよく見る。また全く力仕事をしていない男性もいる。

賃金の差が生まれてしまうのは、「男は会社・女は家庭」といった男女分業の考えが根底にあるからである。私自身も最近まで料理は母や祖母が作るものと思い込んでいたが、間違っている考えだと母の指摘から気づくことが出来た。

#### アルバイトでの男性差別

私はアルバイト先で男性差別を経験した。私の参加したホタテバイトでは、本人の経験や意識に関係なく、男性は強制的に船上での力仕事をさせられた。当時は男性が力仕事をさせられることは仕方がない、当たり前だと思っていたが、これも日本のジェンダーへの固定概念が強く現れている一例ではないだろうか。

#### バイトの賃金による差別

ホタテのバイトで場所によっては男性も女性も働く内容は同じなのだが女性の方がもらえる賃金が少ないという問題がある。実際に女性の先輩から話を聞く機会があったのだが自分（先輩）よりも働いていない（動けていない）のに男性だからと言ってもらえる賃金が多いのは面白くないし納得いかないという話を聞いた。そのため、男性だから、女性だからといって賃金を変えることは非常によくないと思う。バイトでは多くの場合、漁師の方たちも一緒に作業しているのでこの人は頑張っている、頑張っていないことはある程度把握できると思われる。そのため性別で賃金を変えるのではなく働き具合で賃金を変えれば平等になると考えた。

#### 「バイトで垣間見たジェンダーギャップ」

私はホタテバイトに出ているのだが、作業によっては男性と女性の間で作業内容や作業時間、賃金、ひどいときは作業に参加できないこともある。これはホタテに限った話ではなく、力仕事が含まれる仕事では付きまとう問題だろう。男性と女性では平均的にみて体格や力の差から作業内容が変わることは当然の話ではあると思う。ただしこれはあくまで平均的にみての話であって、私は納得できない。なぜかというと、体格や力の観点からみるとすべての女性がすべての男性よりも劣っているわけではないからだ。力に自信がない男性よりも力に自信のある女性のほうが重いものを持つことができるのは当たり前だ。しかし現に私が出ているバイトではそこは考えられていない。あくまでどんなに筋肉があっても力に自信のある女性でもそれは女性の括りのせいで男性と同じように雇われることはないのだ。ましてやその括り付けのせいで賃金に差が出るなどの大きな問題が出てくるのだ。

私がこのことから見て思うのは、雇用する際に一番必要なのは仕事ができる人、すなわちその仕事に適した人を選ぶことなのではないか。男性だからこの仕事をしろ、女性だからこの仕事をしろというのはあまりにも無駄が多く、非効率的なことをしていると思う。単純作業や力仕事、計算や知識を必要とする仕事などピンキリに存在するのだから性別関係なしに得意とする分野でそれぞれが活躍できるような雇用形態を目指すべきだと考える。

#### 男女の労働と賃金差

私が男女差別で経験したことは、ホタテアルバイトで男女で労働力が違うのに、給料が一緒だったことで、男性からは不満の声が挙がっていた。

#### ホタテバイトの男女差別

ホタテの稚貝を漁港で集め、それを青いカゴに入れるという簡単な作業であり、男女関係なくできる仕事なのにも関わらず、バイトの募集が男子のみになっている番屋が多く存在していました。

また、ホタテの稚貝育成で使われる網の掃除のバイトでも募集がなぜか男子のみになっている場合が多く女性が働ける場所が少ないことが差別だと思いました。

また、休憩時間では女の方々は男の方々が飲み物を全員受け取るまで、先に飲み物をとることを誰一人としてしません。昔ながらの男尊女卑の考えがまだ根付いていることを実感しました。

#### 〔学校学級〕

些細なことだけど割と記憶に残っていること

男性差別や女性差別の体験や経験、見た体験はこれと言っていない。周りに男だから女だからといってどうこう言うような人間は居なかったように思われる。そのため特に何か差別で問題になった記憶があるようなことはない。些細なことまで含めれば小学校高学年の頃ドロケイで警察側の時に男子が女子を追いかけるのは卑怯だという意見が出されたことがあったがそもそも警察側に立候補した女子が一人もいなかった上そう発言したのはクラスのリレー選手に選ばれるほど足が速い人間だった。負ける要素ないのに性別を理由に卑怯呼ばわりされたことはあった。体験はそれくらいである。

#### 男女差別について

私が見た経験のある男女差別では、言葉遣いや出欠確認で使われる名簿などがある。言葉遣いでは、男性では、「僕」、「くん」などを使い、女性では「わたし」、「さん」と代名詞を使い性別によって、男女の言葉を差別化している。名簿では、小学生の時に、男子を優先して出欠確認をしており、女子は男子の出欠が終わってから呼ばれていたため、これも男女差別をしていると思う。しかし、最近では、男女の性別の区別をつけず五十音順で並べた男女混合名簿を使用するようになっているため、現在では、男女差別されていないことがわかっている。他にも、女性差別で聞いた話では、男性労働者と女性労働者の給与に格差がある。また、日本では、特に給与格差が大きいと、法律や制度を変え、この格差を縮める必要があると思う。また、女性は出産や子育て、育児をするため、仕事を長期的に続けることができない場合がある。そのため、家庭と仕事が両立できるようにテレワークや在宅ワークを使うなどの仕事の改革が必要になる。

#### 音楽の授業

私が経験した男女差別は、小学校4年生のときの音楽の授業である。私が通っていた小学校の音楽の授業ではリコーダーのテストがあった。一人一回課題の曲を演奏するというものであったが、間違えたときの対応や採点基準が男女で露骨に異なっていた。男子が間違えたときはその場でテスト終了であるのに対して、女子が間違えたときはもう一度チャンスが与えられていた。また女子と比較すると男子の採点は非常に厳しいと感じた。詳細な点数が出なかったため詳しいことは不明であるが、男子の大半がそのテストに対して不満を抱いていた。教師という立場から採点する以上公平を期してほしいと思う。

#### 差別経験談

高校の時に所属していた部活の男性顧問に男性差別をされた経験したことがある。顧問は、女性に対しては優しく接し、部員に物を配る時も必ず女性優先で物をあげたりするなど意図的な差別を経験した。

公衆浴場での男性の浴場に女性の職員の人が入ってくことに差別を感じました。女性の浴場には、男性の職員は入れない。しかし男性の浴場には、男性と女性の職員が入ってくるため、差別と感じました。

#### 男の子なんだから

小学校のとき女子と喧嘩になってしまったことがあったが、向こうに非があっても先生に「男の子なんだから大目に見てあげなさい」と言われ、さもこちらに問題があるかのように指導された。まるで女が悪いことをしても男はそれを水に流せと言われたようで納得できず、今でも疑問に思っている。

#### 私が友人から性別差別を聞いて学べた事

私は高校の時に性差別とまでは分かりませんが差別のようなものを感じた事があります。どの様に感じたかという性別としては男性であり、心は女性側という友人が自分にはいました。その友人の事になりますが友人の話を通して色々な事を知りました。例えば、その友人は一部の女の子の友達には、自身の事を話していました。しかし、その結果として悪い方向に動いた出来事があり、心が女性だからといって自分が好意を抱いている男の子の近くにいて欲しくないと言う様な感じの事を言われたそうです。私はその話を聞き、せっかく信頼もあり自分の事を打ち明けてくれているのに、理不尽な気がしてなりません。しかし、その心としては女性である友人はその様な経験をしてきたからこそ、丁寧に優しく対応したと聞きました。また、私自身もその友人のおかげで性差別などについて考えたり、学べる機会になったのでどんな人でも否定から入られることなく受け入れてもらえる世の中に少しでもなっていけると良いなと思います。その他にも私は、その友人のおかげで、色々な人がいるのだから考えが女々しい部分があったりしても良いじゃないかと言ってもらえたことなどもあり、とても社会として色々な人がいる事は良い事なのだなと感じることもできました。

#### 男女差別の原因

私は男女差別について考えたとき一番に思いついた音がある。それは制服の指定である。日本の多くの公立の中学・高等学校で男子はズボン、女子はスカートというルールになっている。これは立派な男女差別ではないだろうか。女子がズボンを私服ではなくことなど当たり前であり、それが学校では不可とされているのだ。なぜこうなっているのかは詳しくはわからないが、おそらく戦前から続く歴史によって受け継がれてきた、風習だろう。このように歴史や風習によって今日まで続いてきた男女差別は数多く存在する。結婚のできる年齢の違いや、賃金の不平等などである。これらのような歴史に基づいたもの以外にも差別は存在する。「らしくあれ」というものがそれに該当する。

例えば、「男が泣くな」、「女が仕事なんかするな」このようなセリフをよく耳にする。これも典型的な男女差別である。男性が泣いてはいけないというルールや女性が働いてはいけないというルールがあるわけでもない。男はこうあるべきだ。女はこうあるべきだという固定概念が存在することによってこのような発言をしてしまうのだろう。このように身の回りには多くの男女差別が存在し、これは完全になくなることはないと考えられる。だがその数をできるだけ0に近づけることはできるだろう。

#### ピンク色は女性専用の色ではない

男性差別を見た経験として友人の男性がピンク色の部活動のユニフォームを購入した際に、教師から「女っぽい男が着る色じゃない、女々しい。」と言われたことである。言われた友人本人も気分を害しており、服はメンズであったにも関わらず「色の印象」で男性らしいか、らしくないかを判断することは男性差別であると感じた。

男が痴漢に遭うと怒られる

高校2年生の時、塾帰りに女性に陰部、臀部、太ももを触られ痴漢だと非常ボタンで通報したが、車掌や周りの人から男が痴漢を訴えるなんて異常、こんなことで電車を止めるなと怒られ、担当された警察官に物珍しそうに話を聞いてきて訴えても効果がないと言われた。女性が痴漢にあった時の手記、新聞記事と対応が正反対だと感じ、当時これは差別ではないかと感じた。高校に報告したときに、担任や他生徒に逆に女性に触られるのはいい経験だなと言われ、大変不快な思いをした。女子が痴漢に遭うと大事になるが、男子が痴漢に遭うと周りに「いいな」といわれるのは差別だと考える。

#### 〔家族親戚と地域〕

家事は女子の役割という無意識な偏見

女子の友人と会話をしていた際、女子は男子よりも料理が出来た方が良いという意見を本人から聞いた。その女子自身の中に、家事は女子の役割だという無意識な偏見、固定観念があったのだと感じている。男子より料理が出来た方が良い、できて当たり前だという偏見が女子本人に根付いてしまったのは、周囲の人間がそのような固定観念を持っていることが大半であることが主な理由だと実感すると同時に、このような偏見も女性差別に該当すると考える。

周囲の人間が、女性なら何かをして当然である、女性はこのものだという偏見を極力減らす、可能であるならば無くしていく努力をすることが女性の様々な可能性を広げることにつながり、妙な偏見に縛られる必要もなくなるのではないかと感じている。

性差別をする年代

私は小さい頃性差別を見たことがある。親戚の集まりでいろいろな人が集まったときに大人達が男性だからや、女性だからこれをすべきこのように生きるべき等と話していた。かなり昔だったので詳しくどのようなことについて話しているかは覚えていないが親が余りいい顔をしていなかったことが記憶に残っている。子供の頃は無自覚だったが今では集まりの時にそのような話をする集団がいるのは非常に場の雰囲気が悪くなると思う。現在性差別をしているのは親世代以降の人や、その影響を受けている人が多いと思う。減りつつある性差別だがこれ以上下の世代に伝わらないように食い止めていければ性差別はなくなるだろう。

猟友会内における男女の扱いの差異について

私はハンターとして、大日本猟友会に所属しています。全国的に見れば、昭和4年から継続している長寿の組織であり、それ故に旧態依然とした組織運営が見られます。

その最たる例として、会員間で女性蔑視の考え方が多いことが挙げられます。近年では、アウトドアブームや「狩猟女子」という呼び方が流行したこともあり、以前にも増して狩猟を行う女性の数が増えてきました。これは、高齢化等の問題で全国的な狩猟者の減少が続き、以前のように野生動物の捕獲を通して、農作物被害など人間と動物の軋轢を防ぐ役割を担うことが出来なくなってきた猟友会にとって喜ばしいことです。

しかし、高齢会員によるトップダウン型の圧力が強い為、「狩猟行為は男性が行うもの」という昔からの思想が先行し、新規女性会員への嫌がらせや暴言、セクハラ等が行われている現状です。また、「女性が来ると獲物が逃げる」等の思想に捉われ、法令根拠のない理由で猟場への立ち入りを制限するなど、狩猟者として本来の目的に自ら歯止めをかけている現状です。

これには、銃の所持許可や狩猟免許について年齢的な制限が無く、会員の世代交代が起きにくいといった問題が挙げられ、人気に後押しされた会の活性化が抑制されることが残念に感じるほか、男女平等がうたわれている現代社会に未だこのような思想が蔓延していることに落胆を感じています。